

【福井県】
校務DX計画

1 「校務DXチェックリスト自己点検結果」における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果」（文部科学省 令和6年11月実施(速報値)）を数値化した結果では、対象の12校においては、福井県全域の平均得点と比べるとやや上回っている。（福井県平均315点、福井県全域平均308.5点、）

また、対象12校に共通して活用が進んでいない項目があり、今後以下の3点について、各学校と連携を図りながら校務DXの推進を図っていく必要がある。

（1）GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

対象の12校を含めて、すべての県立学校の教員には、校務用の個人メールアドレスが付与されており、情報共有や連絡等にクラウドサービスが活用できる環境にある。自己点検によると、保護者への配布物の配信および保護者から学校への資料提出のほか、児童生徒へのアンケートや宿題等の実施についてもクラウドサービスがあまり活用されていないことが分かった。他方で、教材のクラウド上での共有や教職員向けの調査・アンケートのクラウドサービスの活用といった校内におけるクラウド活用は、多くの学校で行われている。

これまで校内の業務が中心で進められてきたクラウドサービスの活用について、先進的に取り組んでいる学校の事例紹介や研修会を実施することで、各学校におけるクラウドサービスの対象が保護者や生徒にも広がるよう支援を行っていく必要がある。

（2）FAX・押印等の制度・慣行の見直し

自己点検の結果によると、対象12校の約半数の学校でFAXを活用している。また、すべての学校で、業務で押印・署名が必要な書類があると回答している。今後、県教育委員会としては、FAX・押印等の使用に関する実態把握を行い、制度・慣行の見直しを計画的に進めていく。

（3）教育情報セキュリティポリシーの策定

令和6年度末までに教育情報セキュリティポリシーを策定し、各学校への周知を図るとともに、国のセキュリティ対策の動向や現状を的確に把握しながら、随時改正を行っていく予定である。

2 今後の校務支援システムのあり方について

県立学校（県立高校・中学校・特別支援学校）で同一の統合型校務支援システムを使用している。現行のシステムは、ネットワーク分離によるオンプレミス型運用であり自宅や出張先での校務処理ができないことや、同一システムを使用しているため、特別支援学校では、一部の機能が校務の実状に合わずシステムを活用しきれていないといった課題がある。

これらの課題を解消するため、県立学校情報ネットワークの更新に合わせ、校種に応じた新しい校務支援システムを導入する予定である。このことにより、令和7年度から県立学校教員の校務用パソコンが学校外から使用できるようになる。また、県立中学校と特別支援学校のシステムを分けることで、特別支援学校におけるシステム活用を進めていくなど、さらに校務DXが進むよう取り組んでいく。

3 今後の計画について

これらの現状等を鑑み、今後は以下の項目について重点的に校務DXを推進する。また、そのための具体的な取り組みを項目ごとに設置する。

- 校務における生成AIの活用
 - ・ 校務における生成AIの活用についての情報提供（令和6年度～）
 - ・ 研修の実施（令和6年度～）
- FAX・押印の見直しに向けての検討
 - ・ FAX、押印に関する詳細な実態把握（令和7年度～）
 - ・ 関係団体・事業者等への制度・慣行の見直しを求める働きかけ（令和7年度～）
- 教育情報セキュリティポリシー
 - ・ 教育情報セキュリティポリシーの策定（令和6年度）
 - ・ 国の動向等を踏まえた改定の検討（令和7年度～）
- 次期校務支援システム導入に対する検討
 - ・ 県立中学校に導入するシステムの機能の検討（令和6年度～）
 - ・ 特別支援学校に導入するシステムの機能の検討（令和7年度～）